

# 俳句

## 砥部句会

路線バスの廃止決定身に入みぬ 大西 一教  
 父母に会へる気がする十三夜 篠崎 伶子  
 猿山のナンバーワンを探す秋 白形 恭子  
 ななかまどあれが最後の同級会 長曾我部弓子  
 ふる里の廃屋囲む芒原すずきはら 中岡セツコ  
 ミステリードラマ佳境に夜の秋 長戸ふじ子  
 女王の治世敬ふ秋の虹 野村タカ子  
 柿熟れて絵本の中のやうな村 廣末 榮子  
 廃線となりて三年草紅葉 福岡いつ子  
 身に入むや里の田畑の荒模様 福岡 繁平  
 急逝の友の面影身に入むや 松林 静子  
 新米に嬉しそなる炊飯器 宮田 弘道  
 分校の遠出ここまで女郎花おみなへし 向井 章子  
 ポケットに塩飴ひとつ秋耕す 向井 初子  
 身に入むや川面に溶ける空の色 森 安子



## 消費者力アップ通信

### 偽サイトの通信販売に注意

通常3万円以上する掃除機が2万円になっていたので、通信販売で申し込みをした。代金は個人名義の銀行振込であったが、振り込んだ。商品が届かず、メールで問い合わせたが、返答なし。後でよく見るとサイトの日本語が変であり、偽サイトであることがわかった。

### 相談事例

### アドバイス

◆価格が極端に値引きされている場合は、模倣品や偽サイトの可能性があります。あります。  
 ◆支払い方法が前払いに限定されていたり、払込先が個人名義の銀行口座になっている場合などは注意しましょう。  
 ◆日本語の表現が不自然なときは悪質なサイトの可能性が高いので、取引をやめましょう。

### 受付時間

8時30分～17時15分

☎ 相談窓口(商工観光課内) ☎ (962) 2367

☎ 消費者ホットライン ☎ 188

## むかしの道具

### 行灯

電気が通っていなかった時代、木、動物の油、ろうそくなどに火を付けて照明にしていました。

江戸時代までの明かりは、油を入れた小皿(灯皿しんぼん)に芯を浸して燃やした「灯明」が主流でしたが、油は庶民には高価だったので、暗くなったら寝るのが一般的でした。江戸時代になると、灯明の周囲に紙を貼って囲い、火が消えないようにした「行灯(写真)」が広まります。元々は持ち運ぶ照明として使われていましたが、のちにそれは提灯にとって代わられ、行灯は屋内用の照明として定着しました。明るさは現在の豆電球並みであったと言われています。  
 明治時代に入り、より明るい石油ランプが輸入され、行灯はほとんど使われなくなり、それ以降、ガス、電気へと移り変わっていきました。



写真：砥部むかしのくらし館所蔵  
 ☎ 社会教育課文化スポーツ係 ☎ (962) 5952

### 俳句他